



本博覧会は、参加型の博覧会を目指しており、環境面においてもさまざまなアイデアを検討しています。

## 環境モニタリングシステム

会場のはるか上空から森林内の土壌にいたるまで、刻一刻と変化する自然のさまざまな表情を総合的に観測するシステムです。観測点を会場のおちらこちらにちりばめ、黄砂を含む大気、樹木の生長量、微生物の活動など、ネットワーク化したデータから森の呼吸をリアルタイムで感じ「人と自然のかかわり」を実感してもらいます。

## 環境情報システム

環境影響評価によって得られた調査データをはじめとした、博覧会会場候補地およびその周辺の環境情報を活用していただくため、インターネットなどを通じて広く公開するシステムです。

## インタープリターの養成

会期中に森林のガイドとして活躍していただくインタープリターを各方面から集め、2005年までに養成していきます。インタープリターとは、「通訳する」という意味の英語 interpret に由来します。来場者とともに森林を歩き、自然の“言葉”を翻訳することで、森の魅力を体感していただくという役割を果たします。

## ゼロエミッション EXPOルール

ゼロエミッションに関して、関係者すべての参加により創り上げ、運用を通じて改善し、楽しみながら活用するという、全く新しい考え方「共創モデル」のルールです。

## エコマネーの導入

環境に配慮した行動をすることによって貯まるポイントに応じ、いろいろなサービスが受けられるなど、ゲーム感覚で環境を楽しむ仕組みの一つとして、エコマネーが考えられます。

## ライフサイクルを考慮した環境配慮

博覧会事業は、企画・設計から撤去工事までの各段階において、環境にさまざまな影響を与えることが予想されます。ライフサイクル的な観点からも環境負荷の低減に向けた取り組みを工夫しています。

## 博覧会で提案した理念やシステムの継承

博覧会を単なる一過性のイベントとしないよう、博覧会で提案した人と自然との関わり方などの理念や、展示したエネルギーシステムおよび循環型社会モデルなどは会期後も引き継がれるよう工夫しています。

もっともっとアイデアをください。

## みなさまのアイデアをお待ちしております。

<http://www.expo2005.or.jp>

